



プロバスだより 第342号

2024年5月9日発行

編集・発行：情報委員会

東京八王子プロバスクラブ

創立1995年10月18日

2023～2024年度 テーマ

楽しみながら学び合い、支え合おう

第342回例会

日時 令和6年4月11日(木) 12:00～14:00

場所 八王子エルシィ

出席者 33名 出席率 77%

(会員総数 45名、欠席10名、休会2名)

1. 開会

第342回例会開催を告げ、配付資料の確認が行なわれた。

2. 会長挨拶

持田会長

少し桜の開花がおくれましたが、入学式に満開という久しぶりの光景が今年は見られました。

今年度も3/4期が過ぎました。そして、3月20日には当クラブ最大のイベント「合唱祭」が開催され成功裏に終わりました。出演された各学校からのアンケートの回答を拝見しますとすべてに感謝の意が表されています。やはり、発表の場が少なく、本当に成果発表ができて良かったとの報告でした。これは地域奉仕の馬場委員長はじめ、皆さまの協力の賜物とっております。詳細は委員会報告にあります。本当に有り難うございました。

また、理事会では、少し早いですが、今年度の各委員会の活動の振り返りを協議致しました。良い点は継続し、うまく行かなかった点は改善して、課題として来期へ継続させ、さらに良いクラブ活動へ繋げていくようにいたします。いつも繰り返しますが、高齢化や体調不良の方が増えて、さらに会員の減少、それによる実働稼働会員数が減っていることが最大の課題です。ですから、今年のスローガンの「楽しみながら学び、支え合おう」という支え合うことが本当に重要になって来ております。是非



是非、支え合って行きましょう。

本日の卓話は、橋本会員です。楽しみに聞かせていただきたいと思っております。

3. ハッピーコイン披露

塚本副会長からハッピーコイン17件の披露がありました。(3～4ページに掲載)

4. バースデーカード贈呈

4月生れの井上会員、池田会員、塩澤会員、内山会員に池田会員手作りのバースデーカードが贈られました。

塩澤会員、内山会員は米寿を迎えられました。



写真は内山会員、塩澤会員、池田会員
井上会員、会長

5. 卓話

私を変えた忘れられないことば

橋本 治義

私の誕生日は昭和10年11月3日、当時は明治節と言っておめでたい日でした。兄弟は男5人、女4人の9人で、私は5番目にこの世に生まれました。当時は、産めよ増やせよの時代だったようで、人様の前では父曰く「あの東条英樹におだてられて、つい大勢の子供達になってしまった」と言っていました。私が生まれた時は、当時1～2歳の兄2人がその頃流行していた赤痢で夭折していたので、待望の男児が生まれたと父は喜び、今度は間違いがないようにと念じて、屋敷の四方に塩を蒔いて清め



たと聞いています。そんな事情でしたから、私は大勢の家族の中でちやほやされて育ったせい、独りよがりの気ままでおしゃべりな子供になっていました。当時の船森保育園の星野先生には「ハー坊、あなたは口から生まれたのね」と言われていました。そんな具合でしたので誠に粗忽者の私が出来上がったようです。前置きが長くなりましたが本題に入ります。

私を変えた忘れられない言葉 その1

八王子第4小学校の3・4年生の頃、家で昼食時に父と私と弟2人で卓袱台を囲んでいた時のことです。私は例によって弟たちに上から目線でものを言っていたのか、そばで聞いていた父が突然私に向かって鋭い口調で言い放ちました。「治義！お前は弟たちに対してそんなに兄き風を吹かせるものではない！」と。一瞬私は大変驚きました。兄き風などという言葉はそれまで聞いたこともないし、良かれと思って弟たちに指図していたことを父から注意されて胸がドキンとしたのと同時に、私はその場にふさわしくない言い方をしていたことに気づかされました。これは良かれと思って言った自分の言葉が、他人から見て決してそうではないことがあると悟った経験でした。

私を変えた忘れられない言葉 その2

今、国立は桜が満開で大勢の人で賑わっています。その国立にある桐朋中学校での失敗談です。体育の時間、縄跳びの自習の時でした。当時ヨーグルトが出始めた時で、国立駅前にある牛乳店で売っていました。友人二人と自習を抜け出して食べに行き、意気揚々と帰校すると、自習は既に終わっていて全員教室に座っていました。すると班長から、「橋本、金子先生が教員室に出向くようにと言っている」と告げられたのです。私は厳しい説教を覚悟して体育館に隣接している教官室の大きな扉を開けました。金子先生の前に石のように固くなって立っていると、先生は椅子からゆっくりと立ち上がって私の前まで来られました。私の目をしっかり見ながら一拍おいて言いました。「橋本、君の今回の行動は橋本らしくないじゃないか。もっと真面目にやりたまえ！」あとは何も言わず、もう下がってよいと言われた。私は自分のしでかした行動が恥ずかしく自責の念にかられ、その場からすぐには立ち去れませんでした。やっと教官室を出て校舎の長い廊下を戻る途中、ずっと涙が流れて仕方がなかった。それは先生の注意の言葉の中で、私を認めてくださって

いたことを知り、反省と感謝の気持ちが入り交り、感動して嬉し涙となったのでした。教室の入り口で涙をぬぐい、気持ちを落ち着かせるのに精一杯の私でした。

私を変えた忘れられない言葉 その3

それは中学2年生の習字の時間の時です。指導教師は山水中学校時代の教官で軍隊調の残る厳しい渡辺先生でした。黒板に大きく「展覧会出品」と書かれ、それを練習する生徒の机を腕組みをして見回っていました。私の机の前で先生が一瞬立ち止まったかと思ったら、何も言わずに私の半紙を取り上げて教壇に立ち、私の書いた半紙をかざして皆にこちらを見るようにと大きな声で言う。私は小学校1年生から6年生まで八木町の菅沼香楓先生の書道教室に通っていたので書道には若干自信があり、うまくかけているから私の書を取り上げたのかと思っていた処、先生は大きな声で言った。「展覧会の展にひげを生やしているそそっかしいのがこの中にいる。手本をよく見て正しい字を書くように。」クラスの他の生徒に大笑いされた。間もなく笑いが止むと渡辺先生は付け加えて言われた。「橋本、今日ほとんど間違いをやってくれたが、これで橋本は生涯、展の字は間違えることはないだろう。」その言葉は今なお私の胸に深く残っている。本来私は一面的にもものを見る傾向が強かったと思われるが、この三つの体験から自分が見ている自分と他人の見ている自分があることに気づき、物事を複眼的に見ることができるよう人間の幅が広がったと思っています。

6. 幹事報告

持田会長・代行

報告に入ります前に訃報がございます。ご家族からの連絡により下田泰造元会員が12月17日に逝去されておりました。心からのご冥福をお祈り申し上げます。理事会で協議しまして、今後は会員・元会員に関しましては、訃報があった時点で会員に通知できるように「プロバスだより」に掲載することとしました。

モノの値上げが4月からいたるところで起きております。この会場の費用も例外ではありません。元々、苦しい予算で今年度はスタートしております。理事会でも副幹事からの報告がありましたが、現状ではマイナス20数万円の見込です。単年度では赤字ですが、今までの繰越残がありますので、それにて埋め残しているわけです。いずれ財政的な面の相談と協議を皆さんに諮る時期があると思います。お含み下さい。



下田泰造元会員が昨年 12 月 17 日に逝去されました。長年、八王子「宇宙の学校」のサブリーダーとして貢献され、クラブの発展に尽力されました。謹んでご冥福をお祈りします。

例会時の集金のことですが、例会費を毎月集金しておりますが、これを半年分まとめて集金すれば、手間が省けるのではないかと協議しております。継続協議としますので、また、皆さんにはご報告いたします。

年度末にかけて、例年の事業報告書のまとめがありますので、各委員会や同好会の責任者にはあらかじめまとめて頂けるようお願い致します。

7. 各委員会からの報告

(1) 地域奉仕委員会

① 「合唱祭」参加及びご協力へのお礼

3月20日開催の「合唱祭」は会員各位のご協力と奉仕精神により、無事開催出来ました。感謝申し上げます。今回はステージマネージメントが順調で、全体の運営もスムーズに実施できました。

② 「合唱祭」関連の広報について

「タウンニュース紙」に記事が掲載され、J-COMのCATV ニュースでも放映されました。いずれも杉山会員にお骨折り頂きました。

③ 本日例会後に「合唱祭」の反省会を行います。反省点を抽出し、次回に生かしたいと思えます。関係会員のご参加を宜しく願います。

④ 来期に向けた「合唱祭」の課題

市内の小・中学校へ合唱の輪が広がるかどうかにかかっています。見通しは明るいとは言えない状況にあります。皆様のアドバイスをお待ちします。

(2) 交流担当

来月5月18日に東京多摩プロバスクラブの20周年記念行事が開催されます。友好クラブのお祝いに当クラブからも参加を予定しています。

今年の五所川原での全日本の総会・大会へ東京八王子、東京日野、北九州の3プロバスクラブが同道して24名で参加いたします。

8. 全日本プロバス協議会 一瀬幹事長

東京八王子の会長任期は6月で終わります。会則の改定によって7月1日から旭川に移ります。それに備えての引継ぎ準備を始めています。会則変更後初めてのケースなので戸惑いもありますが、しっかりやっていきたいと思えます。

賛助会員はその後増えて7クラブ、個人43名になりました。たくさんのご支援に感謝申し上げます。

4月18日に、びわ湖大津プロバスクラブを訪問予定です。11クラブ目のクラブ訪問になります。

9. 同好会活動報告

麻雀同好会

杉田会員

コロナ禍により中断していましたが、会員から再開を望む声があり、入会者を募集しております。多くの方の参加を望んでおります。

古典芸能鑑賞会

内山会員

4月14日(日)に東京神楽坂にある矢来能楽堂にて能「邯鄲」を鑑賞しました。次回6月15日(土)には能「夕顔」を鑑賞します。

10. 閉 会

塚本副会長

本日の例会は会員45名のうち33名の出席にて開きました。会長から会員の高齢化と例会出席者が減少していること。また、会員減による財務状況について検討しなければならない時期に来ているのではと、4月の理事会で話されたことの報告がありました。

ハッピーコインでは桜に関わる会員の行動や、思い等が、また喜び、お祝い事の声が多くありました。会の今年度のメインの音楽祭の成功理への喜びの声が多くありました。

卓話では橋本治義会員が「私を変えた忘れられない言葉」と題して自分の人生はこの言葉で大きく気持ちちが、思いが動いたことを今までの自分の人生を振り返り、いまでも大きく関わっている今の自分を、淡々と話されたのは印象的でした。

地域奉仕委員会からは音楽祭が皆さんの協力で成功裏に終わったことなどの報告がありました。

これで本日の例会を終了します。



◆孫娘が学友2人と1か月の南米旅行を終え、無事帰国、ほっとしました。 橋本 鋼二

◆一番下の孫が中学校に入学しました。

橋本 鋼二

◆「合唱祭」3月20日の開催、大成功でした！プロバスクラブ主催の今年度のメインの行事が好評を得て終わりました。最後の合唱は盛大で見事でした。私も若者に挟まれて、いつもより大きな声で歌っていました。若い人と歌えてHappy！！ 持田 律三

◆今年の桜の満開は少し遅れましたが、当初より4月8日(月)に国立の桜並木の花見を予定していましたが、花が終わった時期であると諦めていましたが、幸い、今日が満開という日に当たり、最高の花見となりました！！ 持田 律三

◆合唱祭には馬場委員長はじめスタッフの皆さんお疲れ様でした。盛会でした。 有泉 裕子

◆昨日は47回目の結婚記念日でした。二人とも忘れていました。 山本 通陽

◆八王子学園八王子中学校、八王子高等学校の入学式、そして、なかよし幼稚園、多摩なかよし幼稚園入園式が、何年ぶりかの桜の満開時にできました。本当によかったです。 塚本 吉紀

◆初めての合唱祭、会員の皆さんお疲れ様でした。最後の出場者全員による「木を植える」の合唱は迫力があり素晴らしかったです。 内山 雅之

◆桜満喫、春真っ只中、高齢者にとってはひとときわ有難い季節です。 杉山 友一

◆4月1日に米寿を元気に迎えました。88歳を更に体力をつけてがんばります。 塩澤 迪夫

◆我が家の桜は健在です。「息詰まる程さきほこる桜かな」 飯田富美子

◆3月20日の合唱祭は成功裏に終了し、一人一人に感謝します。お疲れ様でした。 飯田富美子

◆去る3月20日の「合唱祭」では、会員の皆様の絶大なる御協力、ありがとうございます。来年度もよろしくお祈いします。 馬場 征彦

◆7月1日の旭川プロバスクラブへの会長クラブボタンタッチに向けて引継ぎを始めています。スムーズな引継に万全を期したいと思います 一瀬 明

◆賛助会員が、全国クラブ、個人42名になりました。たくさんの御支援をいただきハッピーです。

一瀬 明

◆ハッピーではなく、アンハッピーなことが多いのですが、とりあえずワンコイン。 野口 浩平

◆合唱祭、お目出とうございます。参加出来ず申し訳ありません。 濱野 幸雄

私の一句(四月の句会から)

河合 和郎

日本は四季がはっきりしている。しかし世界的な異常気象でこれからの日本は夏と冬の季節だけになる恐れがあるという。春秋の無い俳句の世界は考えただけでも淋しい。

水温む手足伸びたる心地して 池田ときえ

春めく季節の移ろいを「手足伸びたる」とは見事な表現。心に感じる森羅万象を言葉にするのが俳句の醍醐味でもある。

大江戸の遺産巡りや花巡り 下山 邦夫

東京には江戸時代の旧所名跡の歴史遺産が数多く残されている。古の時を訪ね桜の花を愛でる贅沢な一日を一句に。

また来るね小さく手を振る春病棟 野口 浩平

病気見舞いの俳句は多いが、この句は何か心温まる雰囲気を持っている。病気平癒の明るい見通しが見えているような。

息詰まる程咲きほこる桜かな 飯田富美子

桜花爛漫を前にして「息詰まる」の措辞に作者の感動のすべてが凝縮されている。俳句はこうした決め台詞が命でもある。

寝るなとや雨戸を揺する春嵐 馬場 征彦

滑稽俳句というのがあるがこの句はユーモアのセンスが光っている。春先の強風をたしなめるような、楽しむような大人のセンス。

花めぐり花曇りから花の雨 田中 信昭

桜の花時はなかなか天候が定まらない。折角の花見が途中から雨になってしまった。作者は花の雨を「花に嵐」と受け流している。

燕来る水車ごとごと回る村 河合 和郎

水車が回る農村だった川口村も物流基地やら農地の宅地化により、すっかり変わってしまった。燕たちもさぞ驚いていることであろう。

編集後記

窮屈な紙面構成となってしまいました。

情報 内山

